

令和7年度

業務説明書

役務名：星置本線（星置3条7丁目）ほか大口径管調査業務

令和7年5月単価適用

札幌市下水道河川局事業推進部

業 務 説 明 書

1, 業 務 委 託 理 由

2, 調 査 番 号

本業務の調査番号は、 6240 とする。

3, 業 務 箇 所

(1) 手稲区星置3条7丁目 (2) 手稲区曙 1 2 条 1 丁目

(3) 手稲区新発寒 7 条 1 0 丁目 (4) 西区平和 1 条 6 丁目

ほか

4, 業 務 概 要

総延長 L=29, 473m

(1) 調査工 $\phi 2000\text{mm} \sim 4200 \times 4200\text{mm}$ L=29, 473m (別表のとおり)

(2) 修繕工 一 式

5, 履 行 期 間

契約締結日から令和8年3月19日までとする。

6, 仕 様 書

下水道管路保全業務仕様書【本管調査編】及び大口径管テレビカメラ調査業務仕様書
【維持作業編】（共に下水道河川局庁舎1階閲覧室で公開）、下水道管路維持管理業務仕様書、
特記仕様書（下水道管路清掃に係る廃棄物収集運搬業務特記仕様書を含む）による。

特記仕様書

1, 交通誘導警備員について

交通誘導警備員は、下記に示す人員を見込んでいる。現地の状況、その他関係機関との協議により配置人員の増減、追加等が生じた場合は、業務監督員と別途協議すること。

調査箇所	標準作業帯	工種	配置人員	誘導員種別
公安委員会認定路線及び市街地	昼間	管内調査	3人以上	交通誘導警備員A・B
	夜間	管内調査	3人以上	交通誘導警備員A・B
上記以外	昼間	管内調査	3人以上	交通誘導警備員B
	夜間	管内調査	3人以上	交通誘導警備員B

※ 市街地とは人口集中地区（DID地区）及びこれに準じる地区を指す。

※ 現道に係る調査路線においては、交通誘導業務は原則として、警備業の認定を受けている会社に所属する警備員が行わなければならない。

※ 交通誘導警備員Aとは、交通誘導警備業務1級または2級検定合格警備員で、交通誘導警備員Bとはそれ以外のものをいう。

※ 公安委員会認定路線及び市街地での作業時には、交通誘導警備員Aを1人以上配置すること。また、業務監督員に交通誘導警備員Aとしての資格が分かる資料を提示し、確認を受けること。

※ 市街地（公安委員会認定路線を除く）において交通誘導警備業務を行う場合で、検定合格警備員の配置が困難な場合は、その理由書と交通処理計画を業務監督員と協議し、対応を協議しなければならない。

2, 履行開始日について

本業務の履行開始日は、令和7年6月25日と想定して、履行期間の設定及び積算を行っているが、履行開始日が想定した日と異なったとしても設計変更の対象とはしない。

3, 産業廃棄物等の処理運搬等について

受託者は、下水道管内に作業上支障となる産業廃棄物等を発見した場合は業務監督員へ報告し、その処理運搬等の措置について協議を行うこと。

4, 管内調査、維持作業に係る留意事項について

1) 管内調査工法については、以下に示すとおりとする。ただし、水量調査で現場状況を確認し、その結果を元に業務監督員と協議し、調査工法を決定すること。

- ・大口径管テレビカメラ調査
- ・潜行目視調査
- ・船体式カメラ調査
- ・自走式カメラ調査

・浮体式カメラ調査

・飛行式カメラ調査

2) 大口径管テレビカメラ調査は大口径管テレビカメラを用いて調査することとし、調査前の洗浄を省略する。

管きょ洗浄を必要とする場合は、別途業務監督員と協議すること。

3) 潜行目視調査について、調査前の清掃を省略するが、管きょ内に土砂等の堆積があり清掃及び土砂処理の必要がある場合は、別途業務監督員と協議すること。

4) 潜行目視調査における記録写真の撮影は、おおむね10m当り3回（1回あたり直視1枚、側視2枚）を標準とする。

5) 船体式カメラ調査、自走式カメラ調査、浮体式カメラ調査及び飛行式カメラ調査については、管路内の異常の有無を把握できる映像を撮影すること。

6) 管内調査後、判定結果の内容を下記に示す資格を有する者が判定内容の確認を行うこと。

なお、判定内容の確認を行う者は、最初に判定した者以外とする。

・コンクリート診断士

・技術士（建設部門、上下水道部門）

・下水道管路管理総合技師

・下水道管路管理主任技師

7) 副管があることが確認された路線については、その旨をテロップ表示するとともに、「TVカメラ調査記録表」内の備考欄に明記すること。（記入例：「外部副管あり」）

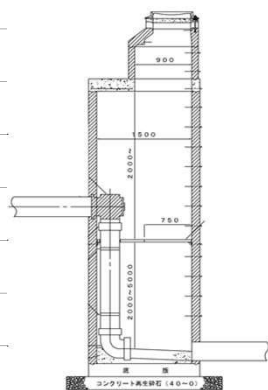
8) 現地調査時に管内調査に際してさや管（管内インバート工）等の疑義がある場合は、その旨業務監督員に報告し、指示を受けること。

9) 維持作業（清掃工及び修繕工）の数量については、想定数量であり作業を確定するものではない。

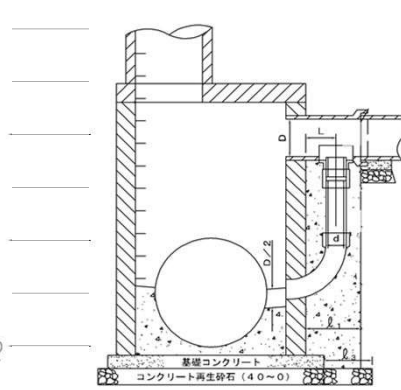
なお、維持作業数量は、管内調査工の結果に基づき業務監督員と別途協議すること。

10) 維持作業が必要な異常箇所があった場合は、業務監督員に報告し、その指示に従って作業を行うこと。

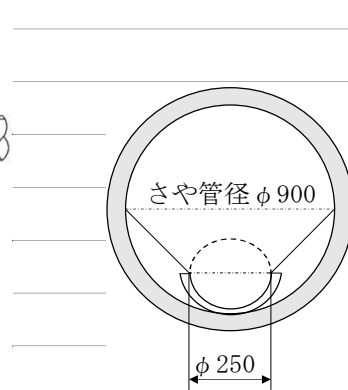
11) 前項に係る事項及びその他事項で疑義がある場合は、業務監督員と協議し決定すること。



（内部副管例）



（外部副管例）



（さや管（管内インバート工）例）

5, 水量調査について
1) マンホール目視調査工の実施は、【令和7年度】下水道管路維持管理業務仕様書の第4章計画的調査【人孔巡視調査】を参考に調査を実施し、成果を報告すること。
2) マンホール目視調査にあたり、マンホール内の洗浄が必要となる場合は、別途業務監督員と協議を行うこと。
3) マンホール内の滞水状況により、管内調査の工法が決定することから、マンホール目視調査から作業を開始すること。
なお、マンホール内の流下状況は都度業務監督員へ結果を報告することとし、報告の頻度は業務監督員と協議し決定すること。
報告に当たっては、別添「マンホール目視調査流下状況速報値」を使用することとし、この様式によりがたい場合は、業務監督員と提出様式の協議を行い決定すること。
4) マンホール目視調査結果から維持管理上、修繕作業の必要が生じた場合は、別途業務監督員と協議を行うこと。
5) 水量の計測箇所については、業務監督員と協議を行い決定すること。
6) 流量調査工の詳細については別添「下水道調査に係る流量調査業務特記仕様書」を参考に調査を実施し、成果を報告すること。
7) 前項に係る事項及びその他事項で疑義がある場合は、業務監督員と協議し決定すること。
6, 空洞調査について
1) 本業務における空洞調査は、本市が指定する判定基準で緊急度ⅠもしくはⅡと判定された管路のうち、異常が著しい箇所を対象に実施するものである。
2) 調査箇所については、管内調査後、調査結果を元に業務監督員と協議し、決定すること。
3) 空洞調査工の詳細については別添「土質調査特記仕様書」を参考に調査を実施し、成果を報告すること。
4) 前項に係る事項及びその他事項で疑義がある場合は、業務監督員と協議し決定すること。
7, 再判定について
1) 業務監督員が指定する管渠の緊急度判定を業務監督員が提供する資料を基に行うこと。
2) スパン全体の評価などの判定基準を業務監督員と協議した後、再判定を行うこと。
3) 再判定を行うものは、下記に示す資格を有する者が行うこと
・コンクリート診断士
・技術士（建設部門、上下水道部門）
・下水道管路管理総合技師
・下水道管路管理主任技師
4) 前項に係る事項及びその他事項で疑義がある場合は、業務監督員と協議し決定すること。

下水道管路清掃に係る廃棄物収集運搬業務特記仕様書

本業務の清掃工において、発生する汚泥等の収集・運搬に関しては、つぎのとおり適用する。

1, 収集・運搬

- (1) 収集・運搬とは、当該清掃業務履行区間において発生する下水道汚泥(土砂・沈砂等)を発注者の指定する受入施設に運搬することをいう。
- (2) 受託者は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の第14条第1項の業務許可証の写しを契約書に添付すること。また、許可事項に変更があったときには、その旨を発注者に通知するとともに、変更後の許可証の写しを提出すること。

2, 搬出先

下水道汚泥等の搬出先は、下水道河川局手稲沈砂洗浄センター(札幌市手稲区手稲山口271番地5)とする。
コンクリートくず等の汚泥運搬車で搬出できないものがあつた場合は、業務監督員と協議し、その指示に従うこと。なお、搬出先は、(株)公清企業 第2エコパーク(札幌市東区中沼町45番地57)とする。

3, 積替保管

受託者は、下水道汚泥の積替保管を行ってはならない。

4, 収集・運搬に関わる注意事項

- (1) 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、「産業廃棄物運搬車両であることの表示」と「許可証の写し等の書面の備え付け」を行うこと。
- (2) 悪臭の発生防止に努めること。
- (3) 他の廃棄物との混合を行ってはならない。
- (4) 運搬物が漏出又は飛散しないよう留意し、下水道施設又は路面などが汚染した場合は、受託者の責任において速やかに清掃、洗浄を行うこと。

5, マニフェスト

産業廃棄物管理票制度に従い、発注者の発行する管理票(マニフェスト)に必要事項を記入し、適切な処理を行うこと。

下水道調査に係る流量調査業務特記仕様書

本業務の調査工において実施する流量調査に関しては、つぎのとおり適用する。

1, 基本事項

- (1) 計測期間は、本業務期間内で30日間とする。ただし、流量計の故障等により有効な計測データが
取れない場合は計測期間の延長を業務監督員と協議の上、決定すること。
- (2) 計測箇所は、別紙「位置図」に示す箇所の中から業務監督員と協議の上、決定すること。

2, 作業内容

- (1) 流量計の設置撤去作業や巡回点検等を行い、計測データの整理を行う。
- (2) 計測期間中に流量計の巡回点検を設置後概ね7日間おきに計4回行うこと。
- (3) 使用する流量計は、面測式流量計（流速・水位法）を想定している。設置する下水道管内の条件
において十分な成果を得られる機器を使用することとし、事前に業務監督員の承諾を得ること。
- (4) 計測データは、1分ピッチで収録させること。また、巡回点検にあわせてデータを抽出し、途中
経過を把握すること。
- (5) 流量計の故障等による責任について、本市は負わないものとする。
- (6) 計測データを原資料と図表等の集計資料にとりまとめて整理し、全て報告書として提出すること。
報告書の様式や内容等については、業務監督員の承諾を得ることとする。

3, 参考文献について

流量計の機器選定及び設置作業の実施等にあたっては以下の文献を参考にすること。

- (1) 下水道管きょ等における水位等観測を推進するための手引き（案）（平成29年7月） 国土交通省
水管理・国土保全局下水道部
- (2) 下水道管路内流量・水質調査マニュアル（平成28年2月） 一般社団法人全国上下水道コンサルタ
ント協会

土質調査特記仕様書

1. 受託者は、各調査地点の位置及び調査順序等の詳細について、事前に担当職員と協議すること。
2. 受託者は、調査にあたり、私有地等を使用するときは事前に担当職員と協議すること。
3. 受託者は、作業の進捗状況を担当職員に報告すること。
4. 作業日報には、試験項目、進捗率、職種別作業人員及び使用機器等の作業内容を記載し業務完了時に担当職員に提出するものとする。
5. ボーリング作業を行うにあたり、事前に地下埋設物を調査し損傷を与えないよう特に注意するとともに、作業区間の安全確保に万全を期し、事故防止に努めること。
6. ボーリングは、一孔完了ごとにその深度等の確認のため、担当職員の立会いまたは、写真等により検査を受けるものとする。
7. 調査によりあけられたボーリング孔は、担当職員の立ち会い検査後必ず砂等により充填すること。
8. 作業を完了したボーリング地点には、孔番、深度、完了年月日及び受託者を明記した標識を設置し、その位置を明確にするものとする。また、業務完了検査後は速やかに撤去すること。
9. 地質構成の判定及びその他解析業務等は、事前に担当職員と十分協議を行うものとする。
10. その他、調査に必要な項目は、担当職員と協議を行うものとする。
11. ボーリング柱状図については、次頁以降の作成要領に準拠すること。

【ボーリング柱状図作成要領】

本要領は、「ボーリング柱状図作成要領（案）解説書」（建設省大臣官房技術調査室監修）に基づき、ボーリング調査において作成する柱状図の作成要領である。その記入要領は次による。

1. 調査名

調査名を発注業務にそって記入する。

記入例： 西 24 丁目線（南 4 条西 24 丁目）ほか大口径管調査業務

2. 事業・工事名

業務名が地区名等で決められている場合、発注業務名だけではどの工事の調査であるのか不明であることが多いので、幹線番号や幹線名がある場合には記入すること。

3. ボーリング No.（コード番号）

本市は特に記入の必要はない。

4. ボーリング名

ボーリング名は下記を参考に監督員と協議しボーリング名を決定することとする。

例) B—— 新設ボーリング———— B-1 (H-10), B-2 (H-10)

注) (H-○)：平成, (S-○)：昭和

5. 調査位置，緯度，経度

調査位置については，調査現場の地名（区，地区名，条丁目，番地）を記入する。

緯度・経度については，国土地理院 1/25,000 地形図より，孔口の緯度・経度を 1 秒単位まで求め記入する。国土基本図，あるいはその他の大縮尺地形図等があればそれらをもとに 1/10 秒単位まで記入する。なお，1 秒は 1/25,000 地形図上では約 1 mm の長さとなるが，緯度によって異なるので地点ごとに求める。

6. 発注機関

発注機関は，「札幌市下水道河川局事業推進部管路保全課管路保全係」のように記入する。

7. 調査期間

調査期間は，「業務開始の日から〇〇日間」または「令和〇〇年〇月〇日まで」と記入する。

8. 調査業者名等

調査業務名，主任技師，現場代理人，コア鑑定者，ボーリング責任者を必要項目について記入する。

9. 孔口標高

孔口標高 H を測量結果に基づき，1/100m 単位まで記入する。

10. 総掘進長

総掘進長は調査対象となるボーリング区間を 1/100m 単位まで記入する。

11. 角 度

角度は，鉛直線となす角度を図 2-1 の例によって記入する。

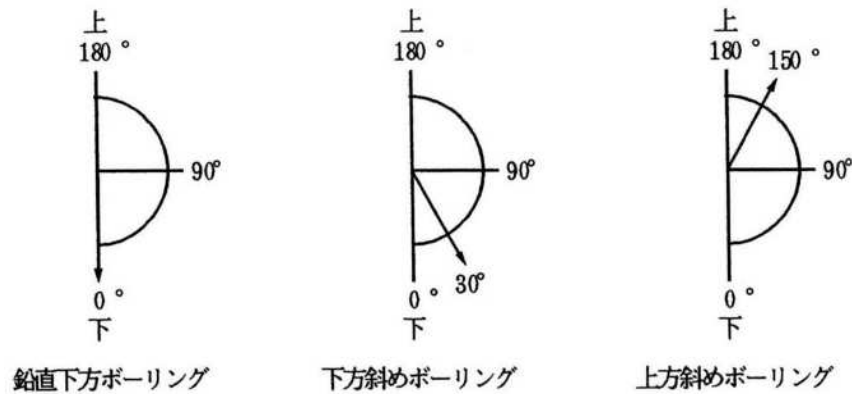


図 2-1 ボーリングの角度の表示例

なお、角度は孔口における掘進角度を記入し、穴曲り計測を行った時には、その結果を原位置試験の欄に記入する。

12. 方 向

方向については、斜めボーリングの時に記入し、掘進の方向を真北より右回り 360° 方位法で図 2-2 の例のように示す。なお、方向は孔口における掘進方向を記入し、穴曲り計測を行ったときは、11. と同様とする。

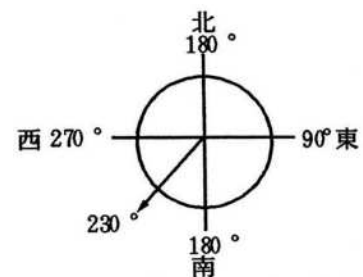


図 2-2 ボーリングの方向

13. 地盤勾配

地盤勾配は、下方ボーリングのみについて、孔口を中心に傾斜上下方向各々 5m 程度の範囲の平均勾配を図 2-3 のように記入する。地盤勾配は、作業能率、穴曲り等に影響するので掘進の記録として残すものである。

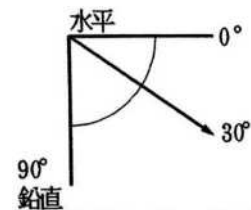


図 2-3 地盤勾配の表示例

14. 使用機種

使用機種については、試錐機、エンジン、ポンプのメーカー名、型式記号、能力について記入する。

ハンマー落下用具は、トンビ、コーンプリーまたは自動落下の区別を記入する。

15. 標 尺

標尺は、孔口を起点に 1m 毎に記入する。縮尺は 1/100 を原則とする。

16. 標 高

標高については、19. の土質区分毎にその標高を記入する。斜めボーリングについても標高を求め記入する。

17. 深 度

深度については、土質区分毎にその孔口からの距離をもとに記入する。

18. 層 厚

層厚は、土質区分毎の区間長を記入する。

19. 柱状図，土質区分

柱状図及び土質区分は，日本統一土質分類を基調に図 2-4 によって下記に留意し記入する。

第 1 分類			第 2 分類			第 3 分類		
区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様
土質材料	礫 (G)	○ ○ ○ ○	補助記号	砂質 (S)	////	岩石材料	硬岩 (HR)	
	礫質土 (GF)	○ ○ ○ ○		シルト質 (M)	////		中硬岩 (MR)	
	砂 (S)	● ● ● ●		粘土質 (C)	////		軟岩，風化岩 (WR)	
	砂質土 (SF)	● ● ● ●		有機質 (O)	〃 〃 〃 〃	特殊土材料	玉石 (B)	○ ○
	シルト (M)	--- ---		火山灰質 (V)	~~~~		浮石 (軽石) (Pm)	△ △ △ △
	粘性土 (C)	===		玉石混り (-B)	○ ○ ○ ○		シラス (Si)	△ △ △ △
	有機質土 (O)	〃 〃 〃 〃		砂利，礫混り (-G)	● ● ● ●		スコリア (Sc)	△ △ △ △
	火山灰質粘性土 (V)	~~~~		砂混り (-S)	● ● ● ●		火山灰 (VA)	~~~~
	高有機質土 (Pt)	〃 〃 〃 〃		シルト混り (-M)	--- ---		ローム (Lm)	ハ ハ ハ ハ
				粘土混り (-C)	////		黒ボク (Kb)	〃 〃 〃 〃
				有機質土混り (-O)	〃 〃 〃 〃		マサ (WG)	↑ ↑ ↑ ↑
				火山灰混り (-V)	~~~~	表土 (Ss)		×
				貝殻混り (-Sh)	○ ○ ○ ○	埋土 (FI)		×
						廃棄物 (W)		×

図 2-4 土質柱状図記号

- ① 土質については第 1 分類によって記入し，必要に応じて例えば図 2-5 のように第 2 分類との組合せとする。

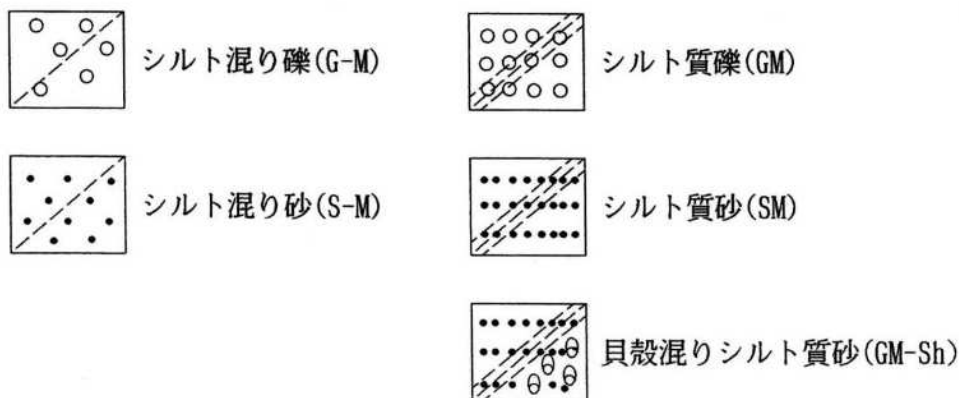


図 2-5 第 1 分類と第 2 分類の組合せの例

- ② 互層については，およその構成比によって欄を縦割にし，図 2-6 の例のように記入する。



図 2-6 互層の表示例

- ③ 土質のうち，特殊土，岩盤，玉石については，第 3 分類によって記入する。
 ④ 表土，埋土，廃棄物については第 3 分類を用いて記入し，記事の欄に土質材料等を記載する。

20. 色 調

色調は、明るい自然光の中で、湿潤状態で観察する。表現に用いる色は「黒・褐・赤・橙・黄・緑・青・紫・白」を基本色とし、基本色以外は基本色の組み合わせ（原則として 2 色）とする。基本色の組合せは主色の前に従色を冠する。また、必要に応じて「濃」及び「淡」の形容詞をつけると共に、黒味を帯びる時は「暗」の形容詞を付ける。従色が特に微弱な時は「帯」の形容詞を付ける。礫岩など雑多な色を呈する時は何色と何色の「雑色」、色が混じっている時は何色と何色の「斑色」とする。

この他、赤白色は桃色、褐色は茶色等慣用的な表現を用いた時が適切な時は、それらを用いてよいこととする。

21. 相対密度、相対稠度

相対密度及び相対稠度は、表 2-1～2-3 を参考にする。

表 2-1 砂地盤の相対密度の表現法

相 対 密 度	N 値
非常に緩い	0 ～ 4
緩 い	4 ～ 10
中 ぐ ら い	10 ～ 30
密 な	30 ～ 50
非常に密な	50 以上

表 2-2 粘土地盤の相対稠度の表現法

相 対 稠 度	N 値
非常に軟い	0 ～ 2
軟 い	2 ～ 4
中 ぐ ら い	4 ～ 8
硬 い	8 ～ 15
非常に硬い	15 ～ 30
特別に硬い	30 以上

表 2-3 細粒土の相対稠度区分と状態表現

状態表現	現場における判別方法 (原位置土に対する親指試験)
軟らかい	親指をたやすく押し込める
中 位	かなり力を入れないと親指は押し込めない
硬 い	親指でへこませることはできるが、親指を貫入させるには大きな力を要する
非常に硬い	親指の爪はたやすく入る
固結した	親指の爪も入らない

22. 記事

記事には次のようなものを深度と共に記入するが、ボーリングの目的に応じて適切な観察を行い、適切な記事を記入する。

地盤の地質年代的区分

沖積層、洪積層等

① 地盤の成因的区分

表土、崖錐堆積物、段丘堆積物、火山噴出物、土石流堆積物、泥流堆積物、風化岩及び盛土廃棄物等

② 土質の特徴

粒度構成、礫の形態、腐植質、有機質、貝殻、含水状態等

③ 掘進作業における特記事項

23. 空欄

空欄は，その他の組織的に区分し記載する事項があればそれについて記入する。
欄が不足すれば，記事の欄を利用して設けるとよい。

24. 孔内水位

孔内水位欄は，原則として自然水位Hを記入し，測定月日を併記する。

25. 標準貫入試験

標準貫入試験は，深度，10 cm毎の打撃回数／貫入量を記入する。N値については，折れ線グラフを用いて表す。

26. 原位置試験

原位置試験は，物理検層，孔内載荷試験等の試験について，試験深度，試験名及び試験結果を記入する。なお，試験結果については，本様式が合わないときは別途柱状図様式を作成して記入するものとする。

27. 試料採取

試料採取は，採取深度，試料番号，採取方法について記入する。

28. 掘進月日

掘進月日は，日毎の掘進区間を記入する。

29. 試験等の記号例

表 2-4 原位置試験等の記号例

記 号	原 位 置 試 験 等 の 名 称
S	標準貫入試験
L	孔内水平載荷試験
P _T	現場透水試験
P _W	間隙水圧測定
T	シンウォールサンプリング
D	デニソンサンプリング
T _r	サンドサンプリング

30. 地盤高の基準

土質調査の地盤高は，下水道河川局設置の補助水準点を使用することを原則とする。

マンホール目視調査流下状況速報値

[illegible]

調査数量表

(別表)

業務名: 星置本線(星置3条7丁目)ほか大口徑管調査業務

No	施設重要度	竣工年	経過 年数	住所	作業 区分	排除 方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査 方法
1	線の施設(重要)	昭和57年	42年	星置3条7丁目	夜間	合流	円形管	2200	215.65	C	再判定
2	線の施設(重要)	昭和57年	42年	星置3条7丁目	夜間	合流	円形管	2200	110.06	C	再判定
3	線の施設	昭和56年	43年	星置3条6丁目	昼間	合流	円形管	2400	232.26	C	目視
4	線の施設(重要)	昭和56年	43年	星置3条6丁目	夜間	合流	円形管	2400	145.56	C	再判定
5	線の施設(重要)	昭和56年	43年	星置3条6丁目	夜間	合流	円形管	2200	174.64	C	再判定
6	線の施設	昭和56年	43年	星置3条5丁目	昼間	合流	円形管	2400	80.30	C	目視
7	線の施設	昭和56年	43年	星置3条5丁目	昼間	合流	円形管	2400	158.45	C	目視
8	線の施設	昭和57年	42年	手稲山口511番地	昼間	合流	円形管	2200	125.16	C	目視
9	線の施設(重要)	昭和56年	43年	手稲山口493番地	昼間	合流	円形管	2200	100.62	C	目視
10	線の施設(重要)	昭和56年	43年	星置2条3丁目	昼間	合流	円形管	2000	22.36	C	TV
11	線の施設(重要)	昭和56年	43年	星置2条4丁目	昼間	合流	円形管	2000	183.35	C	TV
12	線の施設(重要)	昭和56年	43年	星置2条4丁目	昼間	合流	円形管	2000	106.34	C	TV
13	線の施設(重要)	昭和57年	42年	星置1条4丁目	昼間	合流	円形管	2000	57.87	C	再判定
14	線の施設(重要)	昭和56年	43年	星置2条2丁目	昼間	合流	円形管	2000	24.85	C	再判定
15	面の施設	昭和52年	47年	曙10条1丁目	夜間	合流	円形管	3000	190.00	C	目視
16	線の施設	昭和52年	47年	曙9条2丁目	夜間	合流	円形管	3000	110.00	C	目視
17	線の施設	昭和52年	47年	曙10条2丁目	夜間	合流	円形管	3000	45.64	C	目視
18	面の施設	昭和52年	47年	曙10条2丁目	夜間	合流	円形管	3000	135.61	C	目視
19	線の施設	昭和52年	47年	曙9条2丁目	夜間	合流	円形管	3000	100.56	C	目視
20	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙7条2丁目	夜間	合流	円形管	2800	40.00	C	再判定
21	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙7条2丁目	夜間	合流	円形管	2800	68.27	C	再判定
22	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙7条2丁目	夜間	合流	円形管	2800	41.55	C	再判定
23	線の施設(重要)	昭和52年	47年	曙8条2丁目	夜間	合流	円形管	2800	44.50	C	再判定
24	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙7条2丁目	夜間	合流	円形管	2800	97.00	C	再判定
25	線の施設	昭和56年	43年	手稲山口445番地	夜間	合流	矩形管	3000	185.00	不明	目視
26	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙7条2丁目	夜間	合流	円形管	2800	205.00	C	再判定
27	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙6条3丁目	夜間	合流	円形管	2800	136.00	C	目視
28	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙6条3丁目	夜間	合流	円形管	2800	134.00	C	目視
29	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙5条3丁目	夜間	合流	円形管	2600	144.00	C	再判定
30	線の施設	昭和62年	37年	曙10条1丁目	夜間	合流	円形管	3000	188.74	C	目視
31	線の施設	昭和51年	48年	前田10条19丁目	夜間	合流	円形管	2200	58.80	C	目視
32	線の施設	昭和51年	48年	前田10条20丁目	昼間	合流	円形管	2200	144.36	C	目視
33	線の施設	昭和51年	48年	前田10条20丁目	夜間	合流	円形管	2200	47.15	C	目視
34	線の施設	昭和51年	48年	前田10条19丁目	夜間	合流	円形管	2200	260.00	C	目視
35	線の施設	昭和52年	47年	前田7条18丁目	昼間	合流	円形管	2200	156.65	C	目視
36	線の施設	昭和51年	48年	前田8条19丁目	夜間	合流	円形管	2200	73.47	C	目視
37	線の施設	昭和51年	48年	前田8条19丁目	昼間	合流	円形管	2200	74.40	C	目視
38	線の施設	昭和52年	47年	前田7条17丁目	夜間	合流	円形管	2200	80.81	C	目視
39	線の施設	昭和52年	47年	前田7条18丁目	昼間	合流	円形管	2200	147.50	C	目視
40	線の施設	昭和52年	47年	前田7条18丁目	昼間	合流	円形管	2200	78.50	C	目視
41	線の施設	昭和56年	43年	曙2条5丁目	夜間	合流	円形管	3000	150.00	C	目視
42	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙5条3丁目	夜間	合流	円形管	2600	145.00	C	再判定
43	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙4条3丁目	夜間	合流	円形管	2600	123.00	C	再判定
44	線の施設	昭和57年	42年	稲穂1条6丁目	夜間	合流	円形管	2800	176.79	C	再判定
45	線の施設	昭和57年	42年	稲穂1条6丁目	夜間	合流	円形管	2600	98.40	C	目視
46	線の施設	昭和57年	42年	曙1条3丁目	夜間	合流	円形管	2800	133.74	C	目視
47	線の施設	昭和56年	43年	曙1条3丁目	夜間	合流	円形管	2800	108.11	C	目視
48	線の施設	昭和56年	43年	曙2条5丁目	夜間	合流	円形管	2800	70.08	C	目視
49	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙4条3丁目	夜間	合流	円形管	2600	200.00	C	目視
50	線の施設(重要)	昭和54年	45年	曙2条3丁目	夜間	合流	円形管	2200	78.01	C	目視
51	線の施設(重要)	昭和54年	45年	曙2条3丁目	夜間	合流	円形管	2400	156.10	C	目視
52	線の施設	昭和59年	40年	稲穂3条6丁目	夜間	合流	円形管	2000	17.33	C	TV
53	線の施設(重要)	昭和59年	40年	稲穂3条6丁目	夜間	合流	円形管	2000	79.35	C	TV
54	線の施設(重要)	昭和59年	40年	稲穂3条6丁目	夜間	合流	円形管	2200	51.90	C	目視
55	線の施設	昭和59年	40年	稲穂2条6丁目	夜間	合流	円形管	2200	109.92	C	目視
56	線の施設	昭和57年	42年	稲穂2条6丁目	夜間	合流	円形管	2200	62.50	C	目視
57	線の施設	昭和57年	42年	稲穂1条6丁目	夜間	合流	円形管	2600	40.92	C	目視
58	線の施設	昭和57年	42年	稲穂1条6丁目	夜間	合流	円形管	2600	104.49	C	目視
59	線の施設	昭和57年	42年	稲穂2条6丁目	夜間	合流	円形管	2200	51.02	C	目視
60	線の施設	昭和54年	45年	曙2条3丁目	夜間	合流	円形管	2200	6.61	C	目視
61	線の施設	昭和59年	40年	稲穂4条6丁目	昼間	合流	円形管	2000	106.93	C	TV
62	線の施設	昭和59年	40年	稲穂4条6丁目	昼間	合流	円形管	2000	48.62	C	TV
63	線の施設	昭和59年	40年	稲穂4条6丁目	昼間	合流	円形管	2000	27.38	C	TV
64	線の施設	昭和59年	40年	稲穂3条6丁目	昼間	合流	円形管	2000	70.08	C	TV

調査数量表

(別表)

業務名: 星置本線(星置3条7丁目)ほか大口徑管調査業務

No	施設重要度	竣功年	経過 年数	住所	作業 区分	排除 方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査 方法
65	線の施設	昭和55年	44年	稲穂1条1丁目	昼間	合流	円形管	2000	125.78	C	再判定
66	線の施設	昭和55年	44年	曙1条3丁目	夜間	合流	円形管	2200	34.72	C	目視
67	線の施設	昭和55年	44年	曙1条3丁目	夜間	合流	円形管	2200	6.22	C	目視
68	線の施設	昭和54年	45年	曙2条3丁目	夜間	合流	円形管	2200	319.72	C	目視
69	線の施設(重要)	昭和48年	51年	前田7条11丁目	夜間	合流	円形管	2000	174.25	C	TV
70	線の施設(重要)	昭和48年	51年	前田8条11丁目	夜間	合流	円形管	2000	110.50	C	TV
71	線の施設(重要)	昭和48年	51年	前田8条11丁目	夜間	合流	円形管	2000	22.73	C	TV
72	線の施設(重要)	昭和48年	51年	前田9条11丁目	夜間	合流	円形管	2000	109.00	C	TV
73	線の施設	昭和48年	51年	前田9条10丁目	夜間	合流	円形管	2000	90.17	C	TV
74	線の施設	昭和48年	51年	前田9条10丁目	夜間	合流	円形管	2100	163.83	C	再判定
75	線の施設	昭和61年	38年	手稲前田525番地	昼間	合流	円形管	2000	341.81	C	TV
76	線の施設	昭和61年	38年	手稲前田524番地	昼間	合流	円形管	2000	93.25	C	TV
77	線の施設	昭和62年	37年	新川西1条6丁目	昼間	合流	円形管	2800	91.50	C	目視
78	線の施設	昭和62年	37年	新川西1条6丁目	昼間	合流	円形管	2600	334.02	C	目視
79	線の施設	昭和64年	35年	新川西3条5丁目	昼間	合流	円形管	2000	120.00	C	TV
80	線の施設	昭和48年	51年	前田9条9丁目	夜間	合流	円形管	2100	105.90	C	再判定
81	線の施設	昭和48年	51年	前田9条9丁目	夜間	合流	円形管	2100	54.25	C	再判定
82	線の施設(重要)	昭和48年	51年	新発寒7条11丁目	昼間	雨水	開渠	3000	21.65	C	目視
83	線の施設	昭和62年	37年	新川西2条5丁目	昼間	合流	円形管	2600	112.68	C	目視
84	線の施設	昭和62年	37年	新川西2条5丁目	昼間	合流	円形管	2600	211.14	C	目視
85	線の施設	昭和64年	35年	新川西3条5丁目	昼間	合流	円形管	2000	205.20	C	TV
86	線の施設	昭和64年	35年	新川西1条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	244.74	C	目視
87	線の施設	昭和64年	35年	新川西1条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	115.86	C	目視
88	線の施設	昭和64年	35年	新川西1条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	59.50	C	目視
89	線の施設	昭和64年	35年	新川西1条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	135.72	C	目視
90	線の施設	平成2年	34年	新川西1条2丁目	昼間	合流	円形管	2200	175.57	C	目視
91	線の施設	平成3年	33年	新川674番地	夜間	合流	円形管	2000	179.56	C	TV
92	線の施設	平成3年	33年	新川西1条1丁目	夜間	合流	円形管	2000	113.37	C	TV
93	線の施設(重要)	平成3年	33年	前田2条10丁目	昼間	雨水	開渠	2480	8.80	C	目視
94	線の施設(重要)	昭和50年	49年	前田4条4丁目	夜間	合流	円形管	2400	168.78	C	再判定
95	線の施設	昭和52年	47年	前田1条5丁目	夜間	合流	円形管	2300	78.69	C	再判定
96	線の施設	昭和52年	47年	富丘1条5丁目	夜間	合流	円形管	2100	47.78	C	再判定
97	線の施設(重要)	昭和52年	47年	前田1条5丁目	夜間	合流	円形管	2300	144.65	C	再判定
98	線の施設	昭和52年	47年	前田1条5丁目	夜間	合流	円形管	2100	55.18	C	再判定
99	線の施設(重要)	昭和52年	47年	前田1条5丁目	夜間	合流	円形管	2300	43.47	C	再判定
100	線の施設(重要)	昭和50年	49年	前田1条5丁目	夜間	合流	円形管	2300	169.16	C	再判定
101	線の施設(重要)	昭和50年	49年	前田1条5丁目	夜間	合流	円形管	2300	28.05	C	再判定
102	線の施設(重要)	昭和50年	49年	前田1条5丁目	夜間	合流	円形管	2300	227.89	C	再判定
103	線の施設	昭和52年	47年	富丘1条5丁目	昼間	合流	円形管	2100	73.08	C	目視
104	線の施設	昭和52年	47年	富丘1条5丁目	昼間	合流	円形管	2100	73.50	C	目視
105	線の施設	昭和52年	47年	富丘1条5丁目	昼間	合流	円形管	2100	57.51	C	目視
106	線の施設	昭和56年	43年	前田1条3丁目	夜間	合流	円形管	2200	102.78	C	目視
107	線の施設(重要)	昭和50年	49年	前田5条5丁目	夜間	合流	円形管	2400	27.00	C	再判定
108	線の施設(重要)	昭和50年	49年	前田5条5丁目	昼間	合流	円形管	2400	74.00	C	再判定
109	線の施設	昭和50年	49年	前田6条5丁目	昼間	合流	円形管	2400	13.55	C	目視
110	線の施設	昭和50年	49年	前田6条5丁目	昼間	合流	円形管	2400	33.27	C	目視
111	線の施設(重要)	昭和50年	49年	前田6条5丁目	昼間	合流	円形管	2400	40.97	C	再判定
112	線の施設(重要)	昭和50年	49年	前田6条5丁目	昼間	合流	円形管	2200	114.78	C	再判定
113	線の施設	平成3年	33年	新川西1条1丁目	昼間	合流	円形管	2000	134.92	C	TV
114	線の施設(重要)	昭和50年	49年	前田5条5丁目	夜間	合流	円形管	2400	51.81	C	再判定
115	線の施設	昭和55年	44年	前田4条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	45.43	C	目視
116	線の施設	昭和50年	49年	前田4条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	50.10	C	目視
117	線の施設	昭和50年	49年	前田5条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	54.07	C	目視
118	線の施設	昭和50年	49年	前田5条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	59.09	C	目視
119	線の施設	昭和50年	49年	前田5条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	68.02	C	目視
120	線の施設	昭和50年	49年	前田4条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	36.36	C	目視
121	線の施設	昭和56年	43年	前田3条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	51.87	C	目視
122	線の施設	昭和55年	44年	前田3条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	86.04	C	目視
123	線の施設	昭和55年	44年	前田3条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	103.13	C	目視
124	線の施設	昭和55年	44年	前田3条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	71.30	C	目視
125	線の施設	昭和55年	44年	前田3条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	91.35	C	目視
126	線の施設	昭和56年	43年	前田2条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	101.82	C	目視
127	線の施設	昭和56年	43年	前田1条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	101.82	C	目視

調査数量表

(別表)

業務名: 星置本線(星置3条7丁目)ほか大口徑管調査業務

No	施設重要度	竣工年	経過年数	住所	作業区分	排除方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査方法
128	線の施設	昭和56年	43年	前田2条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	81.21	C	目視
129	線の施設	昭和56年	43年	前田3条3丁目	昼間	合流	円形管	2200	140.16	C	目視
130	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒5条1丁目	夜間	合流	円形管	2800	25.00	C	再判定
131	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒5条1丁目	夜間	合流	円形管	2800	127.00	C	再判定
132	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒5条1丁目	夜間	合流	円形管	2800	23.00	C	再判定
133	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒6条1丁目	夜間	合流	円形管	2800	70.96	C	再判定
134	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒5条1丁目	夜間	合流	円形管	2800	87.00	C	再判定
135	線の施設	昭和56年	43年	西宮の沢1条4丁目	夜間	合流	円形管	2200	38.45	C	再判定
136	線の施設	昭和57年	42年	前田1条1丁目	夜間	合流	円形管	2200	233.50	C	目視
137	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒3条1丁目	夜間	合流	円形管	2400	14.50	C	再判定
138	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒4条1丁目	夜間	合流	円形管	2600	130.00	C	再判定
139	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒5条1丁目	夜間	合流	円形管	2600	22.00	C	再判定
140	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒3条1丁目	夜間	合流	円形管	2400	173.00	C	再判定
141	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒5条1丁目	夜間	合流	円形管	2600	125.00	C	再判定
142	線の施設	昭和50年	49年	発寒15条13丁目	夜間	合流	円形管	2600	175.76	C	再判定
143	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条4丁目	夜間	合流	円形管	2400	21.01	C	再判定
144	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条12丁目	夜間	合流	円形管	2400	179.82	C	再判定
145	線の施設	昭和56年	43年	西宮の沢1条4丁目	夜間	合流	円形管	2200	180.10	C	目視
146	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒2条1丁目	夜間	合流	円形管	2200	165.00	C	再判定
147	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒1条1丁目	昼間	合流	円形管	2200	11.00	C	再判定
148	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒2条1丁目	夜間	合流	円形管	2400	20.10	C	再判定
149	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒3条1丁目	夜間	合流	円形管	2400	134.40	C	再判定
150	線の施設(重要)	昭和50年	49年	発寒14条13丁目	夜間	合流	円形管	2600	144.12	C	再判定
151	線の施設	昭和50年	49年	発寒15条13丁目	夜間	合流	円形管	2600	143.00	C	再判定
152	線の施設(重要)	昭和52年	47年	新発寒1条1丁目	昼間	合流	円形管	2200	171.87	C	再判定
153	線の施設(重要)	昭和53年	46年	発寒10条14丁目	夜間	合流	円形管	2000	217.38	C	TV
154	線の施設	昭和49年	50年	発寒12条13丁目	夜間	合流	円形管	2300	156.08	C	再判定
155	線の施設	昭和50年	49年	発寒13条13丁目	夜間	合流	円形管	2400	164.25	C	目視
156	線の施設(重要)	昭和50年	49年	発寒13条13丁目	夜間	合流	円形管	2600	152.02	C	再判定
157	線の施設	昭和53年	46年	発寒9条14丁目	夜間	合流	円形管	2000	66.52	C	TV
158	線の施設	昭和53年	46年	発寒9条14丁目	夜間	合流	円形管	2000	6.68	C	TV
159	線の施設	昭和53年	46年	発寒10条14丁目	夜間	合流	円形管	2000	146.95	C	TV
160	線の施設	昭和53年	46年	発寒9条14丁目	夜間	合流	円形管	2000	46.60	C	再判定
161	線の施設	昭和51年	48年	発寒9条13丁目	夜間	合流	円形管	2200	37.12	C	再判定
162	線の施設	昭和51年	48年	発寒9条13丁目	夜間	合流	円形管	2200	13.81	C	目視
163	線の施設	昭和51年	48年	発寒10条13丁目	夜間	合流	円形管	2200	13.18	C	目視
164	線の施設	昭和49年	50年	発寒10条13丁目	夜間	合流	円形管	2300	108.04	C	再判定
165	線の施設	昭和49年	50年	発寒10条13丁目	夜間	合流	円形管	2300	52.47	C	再判定
166	線の施設	昭和49年	50年	発寒10条13丁目	夜間	合流	円形管	2300	145.00	C	再判定
167	線の施設	昭和49年	50年	発寒10条13丁目	夜間	合流	円形管	2300	52.53	C	再判定
168	線の施設	昭和51年	48年	発寒8条13丁目	夜間	合流	円形管	2000	185.40	C	再判定
169	線の施設	昭和51年	48年	発寒9条13丁目	夜間	合流	円形管	2200	171.37	C	目視
170	線の施設	昭和51年	48年	発寒9条13丁目	夜間	合流	円形管	2200	10.08	C	目視
171	線の施設	昭和51年	48年	発寒7条13丁目	夜間	合流	円形管	2000	90.14	C	再判定
172	線の施設	昭和51年	48年	発寒7条13丁目	夜間	合流	円形管	2000	40.27	C	再判定
173	線の施設	昭和51年	48年	発寒7条13丁目	夜間	合流	円形管	2000	56.76	C	再判定
174	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条4丁目	夜間	合流	円形管	2400	49.25	C	再判定
175	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条4丁目	夜間	合流	円形管	2400	202.57	C	再判定
176	線の施設	昭和48年	51年	発寒15条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	38.60	C	再判定
177	線の施設	昭和48年	51年	発寒15条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	40.60	C	再判定
178	線の施設	昭和48年	51年	発寒15条4丁目	昼間	合流	円形管	2200	63.60	C	再判定
179	線の施設	昭和48年	51年	発寒15条4丁目	夜間	合流	円形管	2400	99.26	C	再判定
180	線の施設	昭和48年	51年	発寒15条4丁目	夜間	合流	円形管	2400	19.60	C	再判定
181	線の施設	昭和48年	51年	発寒15条4丁目	夜間	合流	円形管	2200	13.87	C	再判定
182	線の施設	昭和48年	51年	発寒15条4丁目	夜間	合流	円形管	2200	89.48	C	再判定
183	線の施設	昭和47年	52年	発寒12条2丁目	昼間	雨水	円形管	2100	59.56	C	目視
184	線の施設	昭和47年	52年	発寒12条2丁目	昼間	合流	円形管	2400	63.11	C	再判定
185	線の施設	昭和47年	52年	発寒12条2丁目	昼間	合流	円形管	2400	17.17	C	再判定
186	線の施設	昭和47年	52年	発寒12条1丁目	昼間	雨水	円形管	2100	17.00	C	目視
187	線の施設(重要)	昭和47年	52年	発寒12条2丁目	昼間	雨水	円形管	3000	7.30	C	目視
188	線の施設	昭和53年	46年	西野3条9丁目	昼間	合流	円形管	2000	81.26	C	TV
189	線の施設	昭和47年	52年	発寒12条2丁目	昼間	合流	円形管	2400	102.12	C	再判定
190	線の施設	昭和47年	52年	発寒11条2丁目	昼間	合流	円形管	2000	82.60	C	TV

調査数量表

(別表)

業務名: 星置本線(星置3条7丁目)ほか大口徑管調査業務

No	施設重要度	竣工年	経過 年数	住所	作業 区分	排除 方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査 方法
191	線の施設	昭和47年	52年	発寒11条2丁目	屋間	合流	円形管	2000	21.20	C	TV
192	線の施設	昭和47年	52年	発寒11条2丁目	屋間	合流	円形管	2000	121.28	C	TV
193	線の施設	昭和47年	52年	発寒11条1丁目	屋間	合流	円形管	2000	23.50	C	TV
194	線の施設	昭和47年	52年	発寒10条2丁目	屋間	合流	円形管	2000	56.62	C	TV
195	線の施設(重要)	昭和47年	52年	発寒10条2丁目	屋間	合流	円形管	2000	103.66	C	TV
196	線の施設(重要)	昭和47年	52年	発寒10条2丁目	屋間	合流	円形管	2000	37.70	C	TV
197	線の施設(重要)	昭和53年	46年	西野3条9丁目	夜間	合流	円形管	2000	62.38	C	TV
198	線の施設	昭和53年	46年	西野3条9丁目	屋間	合流	円形管	2000	50.25	C	TV
199	線の施設	昭和53年	46年	西野3条9丁目	屋間	合流	円形管	2000	50.00	C	TV
200	線の施設	昭和49年	50年	西野4条1丁目	屋間	雨水	円形管	2000	50.03	C	TV
201	線の施設	昭和49年	50年	西野4条1丁目	屋間	雨水	円形管	2000	55.11	C	TV
202	線の施設	昭和49年	50年	西野4条1丁目	屋間	雨水	円形管	2000	5.00	C	TV
203	線の施設(重要)	昭和49年	50年	西野4条1丁目	屋間	雨水	円形管	2000	28.38	C	TV
204	線の施設	昭和52年	47年	平和1条6丁目	夜間	雨水	円形管	2000	35.80	C	TV
205	線の施設	昭和52年	47年	平和1条6丁目	夜間	雨水	円形管	2000	36.54	C	TV
206	線の施設	昭和52年	47年	平和1条6丁目	夜間	雨水	円形管	2000	34.20	C	TV
207	線の施設	昭和52年	47年	平和1条6丁目	夜間	雨水	円形管	2000	34.60	C	TV
208	線の施設	昭和52年	47年	平和1条5丁目	屋間	雨水	円形管	2000	43.31	C	TV
209	線の施設	昭和52年	47年	平和1条5丁目	屋間	雨水	円形管	2000	36.80	C	TV
210	線の施設	昭和52年	47年	平和1条5丁目	屋間	雨水	円形管	2000	36.80	C	TV
211	線の施設	昭和52年	47年	平和1条6丁目	夜間	雨水	円形管	2000	36.60	C	TV
212	線の施設	昭和52年	47年	平和1条5丁目	屋間	雨水	円形管	2000	36.90	C	TV
213	線の施設	昭和52年	47年	平和1条5丁目	屋間	雨水	円形管	2000	5.00	C	TV
214	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙12条1丁目	夜間	合流	矩形管	3800	130.44	C	特殊
215	線の施設(重要)	昭和53年	46年	手稲山口57番地	夜間	合流	矩形管	3690	90.00	C	特殊
216	線の施設(重要)	昭和53年	46年	手稲山口57番地	夜間	合流	矩形管	3690	40.00	C	特殊
217	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙12条1丁目	夜間	合流	矩形管	3800	28.44	C	特殊
218	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙12条1丁目	夜間	合流	矩形管	3800	2.56	C	特殊
219	線の施設(重要)	昭和53年	46年	曙12条1丁目	夜間	合流	矩形管	3800	130.64	C	特殊
220	線の施設(重要)	昭和53年	46年	手稲山口57番地	夜間	合流	矩形管	3690	105.00	C	特殊
221	線の施設	昭和57年	42年	手稲山口510番地	屋間	合流	矩形管	2600	216.11	C	特殊
222	面の施設	昭和55年	44年	手稲山口465番地	屋間	合流	矩形管	2600	90.00	C	特殊
223	面の施設	昭和55年	44年	手稲山口465番地	屋間	合流	矩形管	2600	170.00	C	特殊
224	線の施設(重要)	昭和54年	45年	手稲山口58番地	夜間	合流	矩形管	3690	57.83	C	特殊
225	線の施設(重要)	昭和53年	46年	手稲山口57番地	夜間	合流	矩形管	3690	134.94	C	特殊
226	線の施設	昭和54年	45年	手稲山口240番地	夜間	合流	矩形管	3500	47.54	C	特殊
227	線の施設(重要)	昭和53年	46年	手稲山口57番地	夜間	合流	矩形管	3690	137.50	C	特殊
228	線の施設	昭和54年	45年	手稲山口240番地	夜間	合流	矩形管	3500	28.12	C	特殊
229	線の施設	昭和54年	45年	手稲山口278番地	屋間	合流	矩形管	3500	77.36	C	特殊
230	線の施設	昭和54年	45年	手稲山口166番地	屋間	合流	矩形管	3500	194.48	C	特殊
231	線の施設	昭和53年	46年	手稲山口6037番地	夜間	合流	矩形管	3500	160.00	C	特殊
232	線の施設	昭和55年	44年	手稲山口506番地	屋間	合流	矩形管	2600	104.50	C	特殊
233	線の施設	昭和55年	44年	手稲山口504番地	屋間	合流	矩形管	2600	180.00	C	特殊
234	面の施設	昭和55年	44年	手稲山口465番地	屋間	合流	矩形管	2600	90.00	C	特殊
235	線の施設	昭和55年	44年	手稲山口506番地	屋間	合流	矩形管	2600	75.53	C	特殊
236	線の施設	昭和55年	44年	手稲山口454番地	屋間	合流	矩形管	2600	174.70	C	特殊
237	線の施設	昭和54年	45年	手稲山口200番地	屋間	合流	矩形管	3500	180.00	C	特殊
238	線の施設	昭和56年	43年	手稲山口462番地	夜間	合流	矩形管	3000	46.61	C	目視
239	線の施設	昭和56年	43年	手稲山口462番地	夜間	合流	矩形管	3000	99.13	C	目視
240	線の施設	昭和54年	45年	手稲山口278番地	屋間	合流	矩形管	3500	102.64	C	特殊
241	線の施設(重要)	昭和56年	43年	曙5条5丁目	夜間	合流	矩形管	2800	44.22	C	目視
242	線の施設	昭和56年	43年	曙5条5丁目	夜間	合流	矩形管	2800	68.50	?	目視
243	線の施設(重要)	昭和56年	43年	曙5条5丁目	夜間	合流	矩形管	3000	2.00	C	目視
244	線の施設	昭和56年	43年	曙5条5丁目	夜間	合流	矩形管	2800	78.50	C	目視
245	線の施設(重要)	昭和56年	43年	手稲山口445番地	夜間	合流	矩形管	3000	6.72	C	目視
246	線の施設(重要)	昭和56年	43年	手稲山口445番地	夜間	合流	矩形管	3000	89.92	C	目視
247	線の施設	昭和56年	43年	曙5条5丁目	夜間	合流	矩形管	2800	153.00	C	目視
248	線の施設	昭和56年	43年	曙5条5丁目	夜間	合流	矩形管	2800	166.87	C	目視
249	線の施設	昭和62年	37年	曙11条1丁目	夜間	合流	矩形管	2700	7.99	C	目視
250	線の施設	昭和51年	48年	曙10条1丁目	夜間	合流	矩形管	3100	206.05	C	特殊
251	線の施設	昭和56年	43年	曙5条5丁目	夜間	合流	矩形管	2800	165.58	C	目視
252	線の施設	昭和56年	43年	曙5条5丁目	夜間	合流	矩形管	2800	170.00	C	目視
253	線の施設	昭和61年	38年	新発寒7条11丁目	屋間	合流	矩形管	2700	116.44	C	特殊

調査数量表

(別表)

業務名:星置本線(星置3条7丁目)ほか大口徑管調査業務

No	施設重要度	竣工年	経過 年数	住所	作業 区分	排除 方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査 方法
254	線の施設	昭和61年	38年	新川西1条6丁目	夜間	合流	矩形管	2700	8.60	C	特殊
255	線の施設(重要)	昭和61年	38年	新川西1条6丁目	夜間	合流	矩形管	2700	155.95	C	特殊
256	線の施設(重要)	昭和60年	39年	新川西1条7丁目	夜間	合流	矩形管	2700	51.50	C	特殊
257	線の施設	昭和49年	50年	前田8条8丁目	昼間	合流	矩形管	2800	5.29	C	目視
258	線の施設	昭和61年	38年	新免寒7条11丁目	昼間	合流	矩形管	2700	30.50	C	特殊
259	線の施設	昭和49年	50年	前田8条8丁目	夜間	合流	矩形管	2800	21.51	C	目視
260	線の施設	昭和48年	51年	前田9条9丁目	夜間	合流	矩形管	2870	163.07	C	特殊
261	線の施設	昭和61年	38年	新免寒7条11丁目	昼間	合流	矩形管	2700	56.35	C	特殊
262	線の施設	昭和48年	51年	新免寒7条10丁目	夜間	合流	矩形管	4200	32.56	C	目視
263	線の施設	昭和48年	51年	新免寒7条11丁目	昼間	雨水	矩形管	3000	109.68	C	目視
264	線の施設	昭和49年	50年	前田8条8丁目	昼間	合流	矩形管	2800	133.02	C	目視
265	線の施設	昭和49年	50年	前田8条8丁目	昼間	合流	矩形管	2800	16.71	C	目視
266	線の施設	昭和48年	51年	新免寒7条11丁目	昼間	雨水	矩形管	3000	122.86	C	目視
267	線の施設(重要)	昭和48年	51年	新免寒7条11丁目	昼間	雨水	矩形管	3000	21.89	C	目視
268	線の施設(重要)	昭和50年	49年	前田7条6丁目	昼間	合流	矩形管	2800	79.87	C	再判定
269	線の施設(重要)	昭和49年	50年	前田8条8丁目	昼間	合流	矩形管	2800	41.50	C	再判定
270	線の施設	昭和49年	50年	前田8条8丁目	昼間	合流	矩形管	2800	3.89	C	目視
271	線の施設	昭和49年	50年	前田8条8丁目	昼間	合流	矩形管	2800	155.85	C	目視
272	線の施設	昭和49年	50年	前田8条8丁目	昼間	合流	矩形管	2800	9.20	C	再判定
273	線の施設	昭和46年	53年	新免寒7条9丁目	夜間	合流	矩形管	4200	30.20	C	再判定
274	線の施設	昭和48年	51年	新免寒7条10丁目	夜間	合流	矩形管	4200	70.50	C	再判定
275	線の施設	昭和48年	51年	新免寒7条10丁目	夜間	合流	矩形管	4200	112.29	C	再判定
276	線の施設	昭和46年	53年	新免寒7条9丁目	夜間	合流	矩形管	4200	62.50	C	再判定
277	線の施設	昭和46年	53年	新免寒7条9丁目	夜間	合流	矩形管	4200	51.00	C	再判定
278	線の施設	昭和46年	53年	新免寒7条9丁目	夜間	合流	矩形管	4200	5.40	C	再判定
279	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条9丁目	夜間	合流	矩形管	4200	98.00	C	再判定
280	線の施設	昭和49年	50年	前田7条6丁目	昼間	合流	矩形管	2800	103.56	C	目視
281	線の施設	昭和50年	49年	前田7条6丁目	昼間	合流	矩形管	2800	125.61	C	目視
282	線の施設	昭和50年	49年	前田7条6丁目	昼間	合流	矩形管	2800	115.00	C	目視
283	線の施設	昭和50年	49年	前田7条6丁目	昼間	合流	矩形管	2800	25.00	C	目視
284	線の施設	昭和50年	49年	前田7条6丁目	昼間	合流	矩形管	2800	35.00	C	目視
285	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条8丁目	夜間	合流	矩形管	4200	130.50	C	再判定
286	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条7丁目	夜間	合流	矩形管	4200	3.20	C	再判定
287	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条6丁目	夜間	合流	矩形管	4200	60.50	C	目視
288	線の施設	昭和47年	52年	新免寒6条8丁目	夜間	合流	矩形管	4200	46.50	C	再判定
289	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条7丁目	夜間	合流	矩形管	4200	73.00	C	目視
290	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条7丁目	夜間	合流	矩形管	4200	87.00	C	目視
291	線の施設(重要)	昭和45年	54年	前田2条10丁目	昼間	雨水	矩形管	1900	8.00	C	目視
292	線の施設	昭和50年	49年	前田6条5丁目	昼間	合流	矩形管	2800	66.27	C	目視
293	線の施設	昭和50年	49年	前田6条5丁目	昼間	合流	矩形管	2800	5.09	C	再判定
294	線の施設	昭和50年	49年	前田7条6丁目	昼間	合流	矩形管	2800	28.50	C	目視
295	線の施設	昭和50年	49年	前田6条5丁目	昼間	合流	矩形管	2800	49.50	C	目視
296	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条6丁目	夜間	合流	矩形管	4200	83.40	C	目視
297	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条5丁目	夜間	合流	矩形管	4200	10.00	C	目視
298	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条4丁目	夜間	合流	矩形管	4200	122.40	C	目視
299	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条6丁目	夜間	合流	矩形管	4200	30.00	C	目視
300	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条6丁目	夜間	合流	矩形管	4200	61.10	C	目視
301	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条4丁目	夜間	合流	矩形管	4200	7.60	C	目視
302	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条4丁目	夜間	合流	矩形管	4000	25.00	C	目視
303	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条4丁目	夜間	合流	矩形管	4000	16.00	C	目視
304	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条4丁目	夜間	合流	矩形管	4000	62.00	C	目視
305	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条4丁目	夜間	合流	矩形管	4000	7.00	C	目視
306	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条3丁目	夜間	合流	矩形管	4000	30.50	C	目視
307	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条3丁目	夜間	合流	矩形管	4000	73.00	C	目視
308	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条3丁目	夜間	合流	矩形管	4000	73.00	C	目視
309	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条2丁目	夜間	合流	矩形管	4000	78.50	C	目視
309	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条2丁目	夜間	合流	矩形管	4000	11.00	C	目視
310	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条2丁目	夜間	合流	矩形管	4000	87.50	C	目視
311	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条1丁目	夜間	合流	矩形管	4000	74.50	C	目視
312	線の施設	昭和47年	52年	新免寒7条1丁目	夜間	合流	矩形管	4000	11.00	C	目視
313	線の施設(重要)	昭和48年	51年	新免寒6条1丁目	夜間	合流	矩形管	4000	81.93	C	再判定
314	線の施設(重要)	昭和48年	51年	新免寒6条1丁目	夜間	合流	矩形管	4000	95.50	C	再判定
315	線の施設(重要)	昭和48年	51年	新免寒6条1丁目	夜間	合流	矩形管	4000	15.50	C	再判定
316	線の施設(重要)	昭和48年	51年	新免寒6条1丁目	夜間	合流	矩形管	4000	13.27	C	再判定

調査数量表

(別表)

業務名:星置本線(星置3条7丁目)ほか大口径管調査業務

No	施設重要度	竣工年	経過年数	住所	作業区分	排除方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査方法
317	線の施設(重要)	昭和48年	51年	新発寒7条1丁目	夜間	合流	矩形管	4000	10.00	C	目視
318	線の施設(重要)	昭和48年	51年	新発寒6条1丁目	夜間	合流	矩形管	4000	33.00	C	再判定
319	線の施設	昭和47年	52年	新発寒7条1丁目	夜間	合流	矩形管	4000	116.00	C	目視
320	線の施設(重要)	昭和48年	51年	新発寒6条1丁目	夜間	合流	矩形管	4000	56.50	C	再判定
321	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条14丁目	夜間	合流	矩形管	3500	16.00	C	再判定
322	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条14丁目	夜間	合流	矩形管	3500	212.42	C	再判定
323	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条14丁目	夜間	合流	矩形管	3500	160.00	C	再判定
324	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条14丁目	夜間	合流	矩形管	3500	5.50	C	再判定
325	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条14丁目	夜間	合流	矩形管	3500	27.07	C	再判定
326	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条13丁目	夜間	合流	矩形管	3500	153.75	C	再判定
327	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条13丁目	夜間	合流	矩形管	3500	4.20	C	再判定
328	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条13丁目	夜間	合流	矩形管	3500	147.41	C	再判定
329	線の施設	昭和48年	51年	発寒16条13丁目	夜間	合流	矩形管	3500	5.20	C	再判定
330	-	昭和51年	48年	手稲山口265	昼間	汚水	矩形管	3000	62.09	C	目視
331	-	昭和51年	48年	手稲山口265	昼間	雨水	矩形管	3000	50.68	C	目視
332	-	昭和48年	51年	新発寒7条11丁目	昼間	雨水	矩形管	3000	13.50	C	目視
333	線の施設(重要)	昭和63年	36年	新発寒1条1丁目	昼間	合流	円形管	2000	3.80	C	TV
334	線の施設	昭和47年	52年	新発寒7条3丁目	夜間	合流	矩形管	4000	2.00	C	目視
335	-	昭和51年	48年	手稲山口265	昼間	雨水	矩形管	3000	50.68	C	目視
336	-	昭和51年	48年	手稲山口265	昼間	雨水	矩形管	3000	50.68	C	目視
337	-	昭和51年	48年	手稲山口265	昼間	雨水	矩形管	3000	50.68	C	目視
338	-	昭和48年	51年	新発寒7条11丁目	昼間	雨水	矩形管	3000	13.50	C	目視
339	線の施設	昭和48年	51年	新発寒7条11丁目	昼間	雨水	矩形管	3000	109.68	C	目視
340	線の施設	昭和48年	51年	新発寒7条11丁目	昼間	雨水	矩形管	3000	122.86	C	目視
341	線の施設(重要)	昭和48年	51年	新発寒7条11丁目	昼間	雨水	矩形管	3000	21.89	C	目視

昼間:昼間作業とは、AM9時～PM5時の作業を標準とする。

夜間:夜間作業とは、PM9時～AM5時の作業を標準とする。

管種のCはコンクリート管、Vは塩ビ管。

調査方法の目視は潜行目視調査、TVはテレビカメラ調査、特殊は船体式、自走式、浮体式又は飛行式カメラ調査。